



第七卷第九號

暑さに堪へ兼ねるころ、雲の漲り出づる勢ありて
 風しきり落ちたるに、柳、遣なんどの葉、裏白く
 見せたるも涼し、やがて大きやかなる雨の、間遠
 に落ちたるが、後には頻りに降り来て、物音も聞
 えず。土の匂ひ來たるも、いと心地よし

(白川樂翁)

香々